

# 江差町議会だより

No. 182

平成30年8月1日発行



## いっぱい獲れたよ!!

町立保育園（かもめ・日明・水堀）の4～5歳児の子どもたちが、越前町の山田優さんの畑でスナップえんどうやじゃがいもの収穫を行いました。この野菜収穫は、食育と野菜を身近に感じてもらうと今年初めて行われたものです。

子どもたちは、土にまみれながら、立派に育った野菜を手に、収穫を楽しんでいました。

平成30年  
6月議会

## 条例一部改正や補正予算等を審議!

—もくじ—

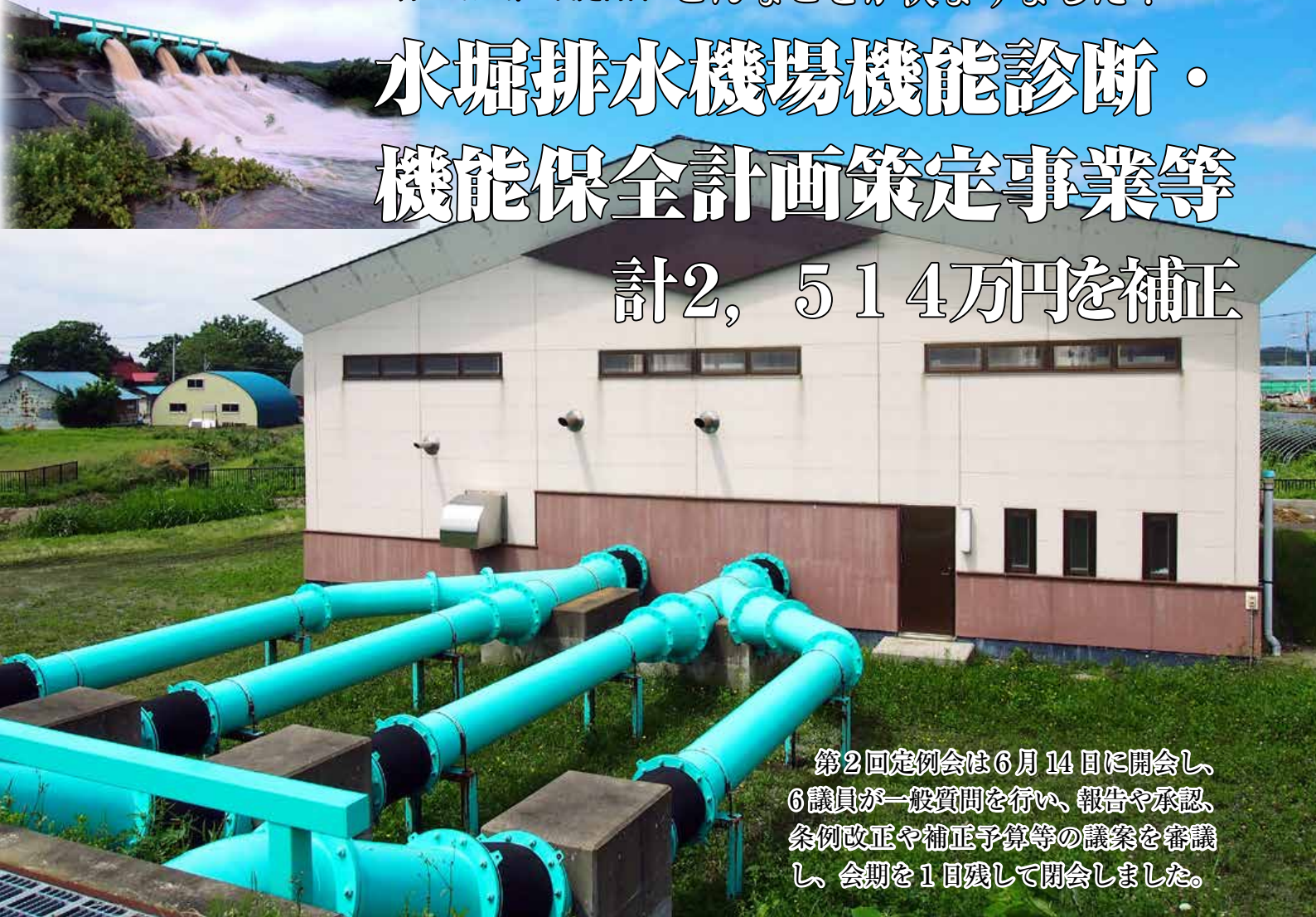
- ◇定例会の主な内容・・・・・・・・・・2～3P
- ◇行政報告、意見書・・・・・・・・・・4P
- ◇一般質問・・・・・・・・・・5～10P
- ◇全員協議会、議員出欠状況・・・・・・・・11P
- ◇委員会報告・・・・・・・・・・12～15P
- ◇広報表彰、議員研修会、今号の表紙、議会の動き・・・16P

平成30年第2回定例会が6月14日に行われ、各会計補正予算、各種条例の一部改正など、提案された案件を審議し、全て原案どおり可決しました。

また、6人の議員が一般質問を行い、さまざまな観点から町政に問いかけました。

6月14日 第2回定例会 こんなことが決まりました！

# 水堀排水機場機能診断・ 機能保全計画策定事業等 計2,514万円を補正



第2回定例会は6月14日に開会し、6議員が一般質問を行い、報告や承認、条例改正や補正予算等の議案を審議し、会期を1日残して閉会しました。

(写真：水堀排水機場)

## 〈補正予算（専決含む）の主な事業〉

### ＜一般会計＞

#### ◇水堀排水機場機能診断・機能保全計画策定

1,000万円（全額道支出金）

- ・長寿命化対策のために排水機場の機能診断と機能保全計画の策定を委託する。

#### ◇新栄町沢川通常砂防事業に係る工作物撤去等

100万9千円（全額その他特定財源）

- ・北海道が実施する砂防ダムの工事で、支障となる工作物と流木を撤去・伐採。

#### ◇経営所得安定対策 286万8千円（全額道支出金）

- ・担い手農家の経営安定化に資するための交付金の支払いなど経営所得安定対策の推進活動に関する経費の補正。

### 定例会補正予算の概要

会計名	今回補正額	補正後の予算額
一般会計	2,062万6千円	54億2,589万8千円
介護保険特別会計	451万4千円	10億4,676万9千円
計	2,514万円	64億7,266万7千円

#### ◇コミュニティ助成（新栄町「新栄山」山車新築補助）

250万円（全額その他特定財源）

- ・老朽化に伴う新栄町「新栄山」の新築に対する補助。

#### ◇住民税副本データ標準レイアウト変更に伴う総合行政システム改修 19万5千円（全額一般財源）

- ・社会保障税番号制度では、様々な業務で情報を照会するため、データ項目の標準となるレイアウトを国が定めているが、町税情報の照会において一部の情報照会が不可能だったことから標準レイアウトが改正された。これに伴い、町の総合行政システムの改修を行う。

### ＜介護保険特別会計＞

#### ◇一般介護予防事業（臨時看護師配置）

269万6千円（全額その他特定財源）

- ・職員の育児休暇に伴う職員配置に係る経費。

#### ◇平成30年8月からの制度改正に伴う介護保険システム改修 181万8千円（国庫支出金他）

- ・利用者負担割合の見直しなどの制度改正対応のための介護保険事務処理システムの改修経費。

【報告】

・平成29年度一般会計繰越明許費計算書  
平成29年度に繰越して使用する予算について報告。公営住宅長寿命化対策（町営住宅南が丘第3団地長寿命化改修）2,777万4千円を繰越。

・平成29年度一般会計事故繰越し計算書  
平成29年度に事故繰越して使用する予算について報告。旧JR江差線の用地確定測量について、例年になく大雪で、現地での作業が遅れたこと、また一部の土地で法務局に公図が無いなどの不備があり、財務事務所など関係機関との協議に時間を要するため、259万2千円を繰越。

・和解及び損害賠償額の決定の専決処分  
・臨時作業員の起こしたりリース車両での追突事故の和解  
・旧日明小中学校体育館からの落雪による倉庫の破損事故の和解

・土地開発公社にかかる経営状況  
土地開発公社の経営状況を資料で提出。

【承認】

・税条例等の一部改正の専決処分  
町民税関連は、控除対象配偶者を同一生計配偶者に変更することによる規定の整備、固定資産税関係では、土地等に係る課税の特例期間を現行からまた3年間延長することなどの改正。

・国民健康保険税条例の一部改正の専決処分  
低所得者に対する軽減の拡大策として、国民健康保険税の応益割の2割軽減と5割軽減の対象の積算する際の単価をそれぞれ引き上げるもの。

・後期高齢者医療に関する条例の一部改正の専決処分  
国民健康保険の被保険者であつて、住所地特例の適用を受けている方が平成30年4月1日以降、後期高齢者医療制度に加入した場合、住所地特例の適用を引き継ぎ、従前の住所地の後期高齢者広域連合の被保険者となる。

【条例改正】

・子ども医療費の助成に関する条例の一部改正  
レセプトの併用化により各家庭では窓口負担なく受診出来る医療機関が町内から道内に拡大

される。  
放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正  
放課後児童支援員の基礎的な資格の改正。

【その他】

・工事請負契約の締結  
「工事名」新陣屋団地2号棟  
建築主体工事

「契約金額」7,322万4千円  
「契約相手」株式会社田畑建設

・過疎地域自立促進市町村計画の変更  
大洞テレビ共同受信施設改修補助及び老人福祉施設等整備事業費補助を追加登載。

・町有財産の処分  
新栄町沢川通常砂防事業に係る町有地を処分。6,636,72㎡、処分価格975万6,008円。

・農業委員の任命同意  
農業委員会等に関する法律の改正により、農業委員の選出方法が農業者による選挙及び団体等の推薦から、市町村長が議会の同意を得て任命することに変更になった。

さらに、過半数を原則として、認定農業者とする事、農業者以外の者で中立的・公正的な判断をすることが出来る者を1名以上とすること、女性及び青年も積極的に登用すること、この3項目の条件が付されている。



- ◆任命同意された農業委員
- ・小笠原裕章氏（水堀町）
- ・笠原一雄氏（越前町）
- ・栗田功氏（鹹川町）
- ・小林克夫氏（柳崎町）
- ・佐藤均氏（小黑部町）
- ・佐藤幸男氏（水堀町）
- ・従二谷伸一氏（愛宕町）
- ・鈴木朝雄氏（越前町）
- ・中野弘一氏（田沢町）
- ・島山克朗氏（中網町）
- ・村田雄一氏（水堀町）
- ・山口艶子氏（鹹川町）
- ・吉田喜代志氏（小黑部町）

議員から質疑！（抜粋）



Q 土砂災害警戒区域指定されているもので、どのように国や道に対し要望しているのか。全体的なことを教えてほしい。

A 要望等の方法は、指定されているものから、順次、危険の度合いを考慮して、社会資本整備に関し、毎年要望を続けている。

Q 何年前から要望していたのか。危険度合いなどを考慮して要望していたのか。

A 平成23年から社会資本整備事業要望を継続的に行ってきた。社会資本整備は、町の中でも数本毎年のように要望している。その中でも、土砂災害等は、豊川町、松谷地区を現在要望している。

Q もっと大きい枠組みで要望すべきではないのか。

A 継続して強く要望行動をしていく。

## 第2回定例会 行政報告



定例会で次のとおり、町長が行政報告しました。

### 1 平成29年度各会計決算見込みについて

歳入総額56億7,491万円

歳出総額55億7,865万3千円

歳入歳出差引 9,625万7千円

繰越金を差し引いた実質収支は7,595万1千円で3,800万円を財政調整基金に積立、残額は繰越金。

### 2 平成29年度水道事業会計決算概要について

営業収益2億7,366万8千円

営業費用2億7,534万6千円

営業外収益1億8,289万4千円

営業外費用 7,040万円

当年度純利益1億1,116万9千円

年度末欠損処理額1億8,174万9千円

### 2 寄付採納について

- ・生活協同組合コープさっぽろ 理事長 大見英明様  
交通安全ランドセルカバー100枚（新入学児童へ）
- ・江差ライオンズクラブ 会長 片石明彦様  
ノート・鉛筆の学用品55組（青少年健全育成に）
- ・函館地方安全運転管理者事業主会江差支部 支部長 打越東亜夫様  
江差警察署管内5町の Mascot キャラクターが描かれた横断旗50本（交通事故抑止活動の一環）
- ・函館地方電気工事協同組合江差支部支部長 国仙勝彦様  
現金10万円（町政発展のために）

# 六議員が町政を問う 一般質問

議員にとって「一般質問」は、議場という公の場で、町長や教育長に対して町政運営の考え方や将来に対する方針を質することができる唯一の場です。

#### ◆質問は要約されています◆

議会だよりのスペースの都合上、質問・答弁は要約したものを載せています。

#### ◆表示の説明◆

文中の再、再再はそれぞれ再質問、再再質問を表します。

## 意見書を提出

6月定例会では12件の意見書を提出し、9件を可決、関係行政機関へ提出しました。

- ◆ライドシェアの推進に対する慎重な審議を求める意見書
- ◆教職員の長時間労働解消に向け、「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法（給特法）」の廃止を含めた見直しを求める意見書
- ◆教職員の超勤・多忙化解消・「30人以下学級」の実現、義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、「子どもの貧困」解消など教育予算確保・拡充と就学保障に向けた意見書
- ◆2019年度地方財政の充実・強化を求める意見書
- ◆2018年度北海道最低賃金改正等に関する意見書
- ◆地域材の利用拡大推進を求める意見書
- ◆旧優生保護法による不妊手術の被害者救済を求める意見書
- ◆ヘルプマークのさらなる普及推進を求める意見書
- ◆日本年金機構の情報セキュリティ対策の見直しを求める意見書



# 飯田 隆一 議員 (無党派)

6月定例会 一般質問

## 「北海道文化財横山家の現状と文化財保護及び観光対策について」

横山家当主の横山敬三氏が急逝され、現在横山家は閉館している。横山家の現状を町としてどう認識しているか。

一般的な補助金申請のタイムスケジュール、方策は。

横山家はニシン文化繁栄の拠点。保存・伝承するためにも遺族と話し合いを進め、早急に支援策を打ち出すべきでは。

**教育長** 町にとって重要な文化財であり観光施設である。貴重な建造物であり、いにしえ街道の歴史的景観を構成する中核的施設でもあると認識している。

補助金申請は、中村家



横山家

は昭和46年に国の重要文化財の指定を受け、昭和55年に修復工事着手、昭和57年に完成。国庫補助は2分の1、残り2分の1を道と町で負担している。当時の総事業費は約1億6千万円。郡役所は、平成4年に道の有形文化財に指定され、計画から工事完成まで6年の期間を要している。総事業費は約4億4千万円。

横山家は、日本遺産認定のストーリーを構成する上で、重要な文化財資源。現在、個人所有であり、相続関係人との意見交換、正式な要請等を踏まえ、どのような方策が必要なのか検討している。

**副町長** 遺族と積極的に話し合いをしていくことと並行して、道教委との接触も図りながら、どういった支援ができるのか等、教育委員会で進める段取りでいる。

**再問** 何とか早い時期に先方と話し合いを進め、改修や開館の手立てを進めてもらいたい。

**副町長** 遺族との話し合いの中での協議になっていく。

**社会教育課長** 敬三氏の兄と面会したが、正式な依頼・要望は受けていない。相続関係人の代表が決定次第話し合いをしていきたい。

横山家の修繕費は文化財専門のコンサルタントに依頼しなければ実際の金額は出てこない。生前の横山氏にもその金額を提示するよう求め、それがあれば、道や国に対して要望できることを話していた。

**教育長** 大幅な調査をしない限り経費がどの程度かかるのか見当がつかない。貴重な建物のため保存していくべきものと考えるが、どう進めていくか今後の検討課題と考えている。

**町長** 具体的な状況は把握出来ないことから、経済損失を算出するのは困難。都市計画区域内に限っては、昨年度は6件中5件がハウスメーカーによる施工となっている。

## 「町有地等の売却と建設業振興策について」

町外ハウスメーカー施工の住宅が増えているが、町の経済にとってマイナスになると考えるが、町としてどのように捉えているか。

町有地等の売却で、奨励策を付けても売れない要因をどう分析しているか。

江差駅跡地の分譲について、大胆な奨励策を打ち出すべきでは。

**町長** 具体的な状況は把握出来ないことから、経済損失を算出するのは困難。都市計画区域内に限っては、昨年度は6件中5件がハウスメーカーによる施工となっている。

町有地の売却が進まない要因は、住宅を建てたい人の立地環境など希望する条件とのマッチングの問題や町としてのPR不足と考えている。今後は広報誌による周知の他、看板の設置など積極的なPRに努めたい。

江差駅跡地は、住宅を建設し定住して頂くことを第一義的な目的としている。地元業者の施工に結び付くような仕組みを

検討し、少しでも地域へ還元が出来るものを考えていきたい。



旧江差駅跡地の分譲予定地

**再問** 駅の跡地の分譲地は江差小学校と南が丘小学校のどちらに通うことになるのか。

土地の売却には大胆なもの求めたい。もっともっと見直しをかけて売り出す必要があるのでは。

**財政課長** 新たな奨励策は現在検討中だが、積極的なPRなどの方策を取りたい。定住し、家を建て、地元業者を使って頂くことを課内で検討したい。

**学校教育課長** 通学区域としては、南が丘小学校区域となっている。



# 小林くにこ 議員 (日本共産党)

6月定例会 一般質問

## 「市町村自殺対策計画の策定について」

自殺対策基本法が2016年に改正され、市町村でも自殺対策計画を策定することになった。町内でも毎年のように自殺者が出て対策が急がれるが、町での策定は、

**町長** 市町村計画は、町の他の計画との整合性・調整を図ることが必要で、他の計画の一部として策定することも可能。厚生労働省の市町村自殺対策計画策定の手引きを参考に、江差保健所のアドバイスを受けながら、単独計画か、健康増進計画の中に盛り込む

か、などを含め内部検討し、6月中に計画策定タイムスケジュールを作成し、年度末までの策定作業を進めたい。

## 「自殺予防の対策に関しての現状について」

自殺対策では、良質で適切な精神医療体制の整備が必要。道立江差病院の精神神経科の診療体制の充実が必要ではないか。

**町長** 第二次保健医療福祉圏域では唯一の精神科であり、身近で専門医に受診出来ることは、自殺予防対策の一つとして重要。精神科診療体制の充実を今後も引き続き道に要望を継続していきたい。

介護疲れ、高齢者の一人暮らしや引き込み、貧困等から自殺に至るケースもある。家族も含めた現状での対応は。SOSの出し方に関する教育について、少なくとも年に1回、各教科などの授業の一環として推進するようにとの通達が

か、などを含め内部検討し、6月中に計画策定タイムスケジュールを作成し、年度末までの策定作業を進めたい。

## 「少数者への正しい知識と人権向上推進について」

LGBTなどについて、学校での取り組みは。目に見える人権意識の向上を推進し、個人を尊重し合い、安心して暮らせる町にすべき。

**教育長** 道教委が作成した教職員向けの資料、性同一性障害の理解のために、を活用し、教職員研修を実施し、スクールカウンセラーによるLGBT関連の研修を実施している学校もある。性同一性障害や性的志向・性自認に係り、悩みや不安を抱える児童生徒から相談を受ける場合

は、研修資料等を活用し適切に対応するよう指導している。

## 「全町民がゲートキーパーとして活躍できるよう啓発に取り組むべきでは」

や乳幼児健診等未受診者訪問等で情報を把握し、早期に関わっていきけるよう努めていく。

**教育長** 児童生徒への自殺予防対策に係る授業は、全小中学校で実施している。

授業以外では、自殺予防プログラムの研修や教育相談等を実施し、悩みを抱える児童生徒の早期発見に努めること、休みがちな児童生徒が出た場合、迅速な保護者への連絡や家庭訪問等により継続的に様子を確認することを行っている。

は、研修資料等を活用し適切に対応するよう指導している。

## 「学校教育課長 相談は児童生徒、保護者全て相談対象となる」

受け付けているのか。

**学校教育課長** 相談は児童生徒、保護者全て相談対象となる。

**町長** その方々が何を求め、行政としてどのような制度設計が必要であるかを見極めていきたい。人権意識の向上の推進、町民が個人を尊重し合う、安心して暮らせる、ことに関しては、議員と同様の考えである。

## 「健康推進課長 何とか状況を掴みながら対応していきたい」

もLGBTの生徒が居たとして、スクールカウンセラーに相談、面談したい場合、保護者からの連絡が必要なのか。児童本人の連絡でも

意識を持って見守る、気づく対策が非常に重要。自殺対策行動計画へ反映していきけるよう努めたい。

全町民がゲートキーパーとして活躍できるよう啓発に取り組むべきでは。

3月は自殺対策強化月間です。厚生労働省が3月に行っている自殺対策強化月間のPRポスター。よりそい相談電話は24時間対応している。



0570-064-556 http://shienjoho.go.jp/

0120-279-338 03-3868-3811

0120-279-226

3月は自殺対策強化月間です。厚生労働省が3月に行っている自殺対策強化月間のPRポスター。よりそい相談電話は24時間対応している。



# 小梅 洋子 議員 (無党派)

6月定例会 一般質問

## 「災害時の避難訓練について」

地域防災計画が策定され、ハザードマップの配布もされた。災害はいつ起こるか分からない。身を守るにはまず逃げるのが一番と考える。

町内会は独自で図上説明会やビデオを活用しての話し合いなどで、注意を促しているが、行動してみないと分からないことがたくさんある。防災意識向上のため、町をあげて大きな避難訓練の実施が必要ではないか。

**町長** 町民を巻き込んだ避難訓練は平成26年11月に実施した北海道防災総合訓練以降行っていない状況にある。執行方針



かもめ保育園では毎月避難訓練が行われている。防災ずきんをかぶり避難する園児。

には、防災ハザードマップの全戸配布に伴い、町内会・自治会と連携してハザードマップの活用方法と図上訓練や防災・避難訓練を行う、としている。

具体的方法や時期は今後検討するが、津波避難訓練も一つの方法と考えている。実際に参加し行動することで、防災意識の高揚を図っていき

**再** 避難経路の確保や要支援者との付き合い方などを考えるいい機会になる。継続して毎年行う考えはあるのか。

**総務課長** 今年度はやることで検討を進めている。継続してということについては、そう出来るよう努めたい。

**再** 保育園や各小中学校、介護施設、福祉施設の訓練状態はどうなっているのか。

**学校教育課長** 各小中学校は、防災訓練は年1回行っている。それぞれ火災、津波を行っている。

**町民福祉課長** 保育園の避難訓練は毎月定例で行っている。

## 「ニシンの活用(消費)について」

ここ1、2年、江差でもニシンが獲れてきているようだが、町民の間では盛り上がり欠けているように思われる。ニシンそばやニシン漬けには馴染みがあるもののそれだけでなく、特に加工しなくても煮たり焼いたり、家庭で手軽に美味しく食べられることを、

もっと町民の皆さんに知ってほしい。そのために、町民対象のニシン料理の試食会を開き、味を覚えて頂き、調理方法を広め、もっともって活用を図り、消費に繋げて、盛り上げていきたいと思うが、どう考えるか。

**町長** 町におけるニシン漁は近年徐々に水揚げが増え、平成29年には約0.8トン、本年は約3トンの水揚げがあった。ニシン資源の増大を図るため、檜山管内水産振興対策協議会が中心となって、稚魚の放流事業を続けている。この放流事業に使われないニシンが一般に流通し、市場へ

出回る状況にある。まだまだ、少ない量の流通だが、本年は年間を通じた江差産ニシンの流通や観光客への提供などを目指して、江差町観光まちづくり協議会が漁協と協力し、ニシン約730キロを冷凍確保した。



ニシンの三平汁(上)とニシン漬(右)。どちらも昔から食べられている郷土料理。

ニシンの繁栄が息づく町として日本遺産にも認定され、食文化についてもニシンそば、ニシン漬け、ニシンの三平汁など多くの伝統的な調理方法の他、新たな調理法や土産品への加工など、企業や飲食店にも研究や努力をして頂いている。

しかし、町民にも地元

産ニシンの味に親しんでもらい、手軽に活用して頂く地産地消についても、重要な取り組みの一つであると考えている。このため、町民を対象としたニシン料理教室、料理講習会等の開催について検討し、今後も江差産ニシンの消費拡大に努めていきたい。

**再** かもめ島まつりの炉端焼きで、ニシンを焼く予定はないのか。

**追分観光課長** 今のところ具体的に協議した経過はない。団体と再度協議し、対応可能か協議していききたい。



# 塚本 眞 議員 (無党派)

6月定例会 一般質問

## 「情報通信基盤の整備について」

町内から情報過疎地を無くす必要がある。地域住民からは早期に情報基盤整備の要望もある。新たに光回線を導入するとなれば、膨大な予算が掛かる。無線LANやWiFiの活用などについて、今後、光回線が配線されていない地域での運営方法について、庁内でどのような検討をされているか。

**町長** 昨年6月定例会での質問、7月に旧朝日校下の町内会に越前町内会を加えた6町内会からも同様の要望があった。

現在、携帯電話会社において様々なブロードバンドサービスが提供されている。これらを活用することで、光回線を使用したブロードバンドサービスと遜色のない環境が当該地域の一般家庭等でも利用できる状況となっている。これら費用面も含めた環境が、広く地域に普及、浸透していくことを望んでいる。また、スマートフォン

やタブレットが普及している現在では、当該地域のブロードバンド環境は、高速の無線通信WiFiの活用が、現実的で効果的な方法と考えている。しかし、一方で町においてWiFi設備等の情報通信基盤の整備として、光回線の末端から無線中継局を設置し、未整備地域へ無線で電波を飛ばす方策でも、

多額の費用を要し、設置後の維持管理やサービスを提供する事業者との調整など、様々な課題がある。そのため、WiFi整備等の情報通信基盤の整備も難しいと判断している。



(右) ONU<光回線終端装置:左>とWi-Fiルーター<右>。ONUは光回線でインターネットに接続する際に必要な通信機器のひとつ。Wi-Fiルーターは様々な機器をワイヤレスでインターネットに接続させる。



(左) 電線や電柱には様々なケーブルが配線され、そこから各家庭へ線を引き込んでいく。

- ◆無線LANとは ケーブルがなくてもインターネットに接続できるシステムのこと。親機(無線LANルーター)から発信される電波を子機(パソコン等)が受信し、インターネットが利用できる環境になる。
- ◆Wi-Fiとは 無線LANの認定規格のひとつ。無線LANというくくりの中に、Wi-Fiがある。例えば、自動車という乗り物(無線LAN)と、その中のブランドである日本車(Wi-Fi)のようなもの。

## 「義務教育における部活動指導(中学校)について」

テレビやニュースで話題になっているが、教育機関の最高学府において、部活指導(監督・コーチ)のワンマン的な部活動や勝利優先主義などの在り方が問題となっている。義務教育における部活動指導、特に中学校の教育現場では、どのように指導しているのか。

**教育長** 中学校の部活動は、学習指導要領では、学校教育の一環に位置付けられ、生徒の自主的、自発的な参加により行われ、スポーツや文化及び科学等に親しみ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものとして、教育課程との関連が図られることに留意すること、となっている。

各学校で、部活動に関する運営方針として、目的や目標、基本的事項、約束事などを定めており、基本的にはその方針を尊重することが大切であると考えている。

部活動の目的は、異学年交流でのコミュニケーション能力の向上や、体力の向上及び技術習得、また教育活動の一環としての自主的な活動を通して、協調性や社会性を向上させることを目的としている。

部活動の指導としては、勝利至上主義はとらず、ルールを遵守する態度の大切さを学ばせ、礼儀や態度など、豊かな人間性を育てることを目標として指導をしている。

議員がご心配のワンマン的な指導やルールを無視したような指導については、当然ありませんし、管理職による部活動の点検や複数顧問の配置などにより、健全な部活動指導を行っている。





# 小野寺 真 議員 (日本共産党)

6月定例会 一般質問

## 「道立江差病院の状況について」

現在の医師、看護師の充足率、入院ベッドの利用率は。

町民が不便や問題点を訴えている。具体例も含め、道へどのような要望をしているのか。

**町長** 医師は定数17に対し10人、看護師は定員119に対し86人、入院ベッ



北海道立江差病院

ド利用率は昨年度実績で40・7%。

診療体制維持は南檜山保健医療福祉圏域で札幌医大へ出向き要望行動を行っている。特に圏域唯一の小児科、精神科、産婦人科、透析に関して強く要望している。病院の利用に対しては、都度病院と情報共有し要望を伝えている。

**町** 道立病院での人工透析が増やせない状況なのか。

医師対策について、国にきちんと伝えていくべき。

道立病院と地域とのつながりを深めるべき。出前講座の実施など地域との関わりを持つべきでは。

**健康推進課長**

人工透

## 「禁煙対策について」

町健康増進計画では行政や関係団体に対する支援策が出されているが、具体的にどのような取り組みがあったのか、成果は。町の公的施設の対策は。全面禁煙を進めるべきでは。

**町長** 学校でのタバコ学習、妊娠届出時の指導、禁煙方法の各種事業

での周知などを行っているが、出前講座協議検討など取り組みを行っている項目もある。各取り組みは2020年に中間評価を行う。

公共施設は、建物内禁煙を進めるための準備をしている。遅くとも年内に課題整理をし、禁煙の時期を決めていきたい。

## 「防災計画の普及・啓発について」

防災計画を一つひとつ着実に進めることが必要ではないか。

**町長** 攻めの姿勢で積極的に働きかけをし、ハザードマップの活用を図っていききたい。防災計画に規定している普及・啓発を要する事項や方法に基づき、防災活動が的確で円滑な実施が図られるよう努めたい。

**町** 町広報誌に、防災についてシリーズで掲載しては。土砂災害などの情報をホームページで詳しく載せてはどうか。

防災備蓄センターを知ってもらう必要があるのでは。

さまざまな想定をした避難訓練を実施すべき。

**総務課長** 広報の連載は交通安全対策とマツ

チングしながら今後に進んでいきたい。ホームページの充実にも努めていきたい。

## 「森林経営について」

森林経営管理法が成立し、利益の出ない森林を市町村で管理することになり過大な負担となると指摘されているが、町への影響は。

町内私有林の経営管理の状況や所有者不明森林の状況は。

**町長** 今後の政令等を待ち、情報を適宜把握し、

ていきたい。

**町** 情報提供など、森林組合との状況は。

**産業振興課長** 道自体も具体的な運用について説明出来ない状況と確認している。今後、しっかりと内容を把握していきたい。



# 室井 正行 議員 (自民党)

6月定例会 一般質問

## 「日本遺産認定とビューティフル スモールタウンについて」

小さくてもキラリと光るまちづくりを町は進めなければなりません。まちづくりには日本遺産をどう生かし、目指すものは何か、具体的な考えがあるのか。

文化庁の補助金終了後、何を優先し何の事業を推進したいのか。

新たな発想を取り入れた事業計画が必要。民間活力を入れながら、地域経済の活性化に連結されるような取り組みが必要では。

**町長** 古くて新しいまち江差を掲げ、歴史的・文化的資源を生かし、若い世代が住みたい、遊びに行きたい、そのような町を目指している。日本遺産認定を生かした事業展開が必要不可欠。今後は、観光DMOの推進や日本遺産に関連した数々の文化財が点在しているかもめ島を含めた周辺地域の整備を想定した北の江の島構想を着実に実行していく。

日本遺産の事業を通じて、江差町の価値を町民が理解・実感し、町民自身が観光に係わる、携わる環境作りを進める。醸成した町民の意識を誘客に最大限活かしていきたい。

また、日本遺産事業により構築した仕組みや情報発信の取り組みなどを基盤とし、通過型から滞在型・着地型観光への転換を図ることで、幅広い産業業種に経済波及効果をもたらすよう補助事業終了後における町の自走化に向け、民間のプレイヤーの掘り起こしを進めるなど、的確な事業展開を進めたいと考えている。

日本遺産認定と新たな事業の発掘について、観光DMOの立ち上げとその推進、北の江の島構想など、今後計画を詰めていく段階で、官民間問わず多くのご意見・ご提言を賜りながら、未来を見据えた事業計画の策定に繋げていく。

日本で最も美しい村連合への加盟或いは地域型としての日本遺産認定は、国内外の観光客を江差町へ呼び込むための大切なツール。その方々がもう一度訪れたい、知人にその良さを伝えたいと思ってもらえるような町とするための環境整備に努めていきたい。

**副** 今年の日本遺産で、江差町が参加しなかった、「小樽市、石狩市と青森県野辺地町含め

た構成町村15道府県の38市町が荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間、北前船寄港地船主集落」が追加認定された。また、中国の大連で行われた北前船フォーラムに江差町長は参加していなかったが、北前船寄港地の江差が先頭を切って参加すべきでなかったか。

上川アイヌなどの日本遺産認定も広域連携となっている。単独認定の江差町はこれからどう進んでいくのか。北の江の島構想と連動した計画、プロジェクトチームなどが必要ではないか。

**追加観光課長** 日本遺産ブランドは、なかなか多くの方々に認知されていない。今年の上川の認定或いは空知、小樽、胆振の炭鉱、港、それから鉄というところで来年手を挙げるというのを見ても、日本遺産に対する見方は上がってくるのではないかと考えている。

江差町がリードしながら北海道と日本遺産で観光客を呼べるようなリードをしていきたい。

**町長** 日本遺産を町が目指したのは、文化財を活用して観光振興に繋げたい目的。単独認定は観光戦略としてプラスに働



(右) 文化庁発行の「日本遺産」と江差町歴史文化基本構想の冊子。



(上) (右) 一昨年11月に開催された第18回北前船寄港地フォーラム in 北海道江差。レセプションやパネルディスカッション、寄港地の物産展が行われた。

くことを考え目指した経緯がある。北前船の広域連携についても、町が排除されるものでなく、今後も認定町村と連携していく。

日本遺産の北海道の先進地としての自負はあるが、観光振興に生かされていく。それをどう解決するかが求められている。

今後、認定地が増えていくことは喜ばしいが、その分江差町も年数を重ねて、進化していかねければならない、そういう取り組みをしていかねければならない。北前船の皆さんとも協力しながら、江差町の観光振興を

**町長** 小さくても、江差町に行かないと味わえない空間を作る。そういう計画を練る必要があるのでは。

北の江の島構想がまさに江差町の顔となるような観光拠点と成り得るような色々な魅力付けを考えていかねければならないと思っている。我々一所懸命策定して参りたい。色々なご意見をお聞かせ願いたい。



# 全員協議会を開催しました！

4月23日、7月11日に開催した全員協議会について、その内容をお知らせします。

## 4月23日

### ・北の江の島構想（概要版）について

かもめ島の景勝、史跡などの自然環境や歴史文化、隣接する海の駅開陽丸・江差港マリナーなど江差ならではの資源を活用し、町民や観光客が集う拠点にするという構想。かもめ島エリアや開陽丸エリアの施設整備案を複数示し、今後この構想を軸に拠点整備を進めていくことが説明された。

### ・江差町中心市街地活性化調査再検証事業について

平成26年度に江差商工会が実施した調査事業から3年が経過し、旧江光ビル解体後における商店街を取り巻く環境が、どのように変化しているかなどについて、江差商工会が追跡調査した成果品の提出があったことが報告された。

### ・地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）の認定について

江差こども未来応援プロジェクトが国の地域再生計画として認定され、今後はパートナー企業と寄付の時期などについて協議を進めながら、各種の事業を展開していくことが報告された。

### ・日本遺産関連事業について

平成29年度事業の顛末と平成30年度の補助金額の内示を受け、事業計画が完成した。また、ニシンのほりの掲揚方法について説明があった。

### ・函館空港ビルディングの株式譲渡価格の公表について

1株当たりの株式価格は、8,402円となり、500万円強の収入が見込まれることが説明された。

### ・議会だよりにおける一般質問登壇者の写真掲載について

5月1日発行の議会だよりから、一般質問欄に各議員の顔写真を掲載することについて確認した。

## 7月11日

### ・公用車の自動車検査証有効期間切れ運行について

有効期間切れの公用車を運転していたことについて報告された。

# 出欠状況をお知らせします！

平成30年4月1日から6月30日の出欠状況です。斜線部分は出席する必要のない会議です。

会議名	会議日	総務産業常任委員会					社会文教常任委員会						議長	
		室井正行(委)	若山明廣(副)	薄木晴午	小野寺真	小梅洋子	小林(こ)三(委)	塚本真(副)	飯田隆一	萩原徹	西海谷望	小笠原淳夫		
第1回定例会	6月14日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
全員協議会	4月23日	○	○	○	●(私用)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
総務産業常任委員会	4月17日	○	○	○	○	○	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線
	4月23日	○	○	○	●(私用)	○	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線
	4月24日	○	●(私用)	○	○	○	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線
	5月15日	○	○	○	○	○	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線
	5月22日	○	○	○	○	○	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線
社会文教常任委員会	4月3日	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	○	○	○	○	○	○	○	○
	4月18日	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	○	○	○	○	○	○	○	○
	5月8日	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	●(病欠)	○	○	○	○	○	○	○
	5月21日	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	○	○	○	○	○	○	○	○
議会広報特別委員会	4月9日	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	○	○	斜線	○	○	○	○	○
	4月23日	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	○	○	○	○	○	○	○	○
決算審査特別委員会	6月14日	○	斜線	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議会運営委員会	4月27日	斜線	斜線	○	○	○	斜線	○	○	斜線	○	○	○	○
	5月25日	斜線	斜線	○	○	○	斜線	○	○	○	○	○	○	○
	6月5日	斜線	斜線	○	○	○	斜線	○	○	○	○	○	○	○
	6月21日	斜線	斜線	○	○	○	斜線	○	○	○	○	○	○	○

# くりのために

## の利用計画に関する事務調査』



総務産業常任委員会（室井正行委員長）は、平成29年第2回定例会で事務調査をおこし、12回会議を開催し、担当課の説明、千葉県館山市や神奈川県江の島、七飯町の道の駅などの先進地視察を2回実施し、調査をした結果について報告した。

周辺地域は、特に漁業振興や民間団体などが所有する施設群が集約され、老朽化や景観が懸念される状態で施設が点在している。その一方、民間による個性ある宿泊施設が建設され、周辺景観への配慮が求められている。

国道228号線は、単に急カー

本調査は、「かもめ島」を中心とした周辺地域全体の活用計画の調査が極めて重要であるとの認識で、周辺地域を範囲として特定した。

### ◆周辺地域のゾーニングの設定

### ◆かもめ島周辺地域の調査範囲について

△意見▽※抜粋

北前船交易の舞台として江差町の歴史を象徴する「かもめ島」。町は「北の江の島構想」古くて新しいまち「江差」、かもめ島周辺を拠点とした構想を打ち出した。

そこで本委員会は、江差町の大きな構想との連携等について調査するため、事務調査を立ち上げた。これら調査結果について、次のとおり意見を付して報告する。

### ◆他計画との連動と事業推進体制の確立

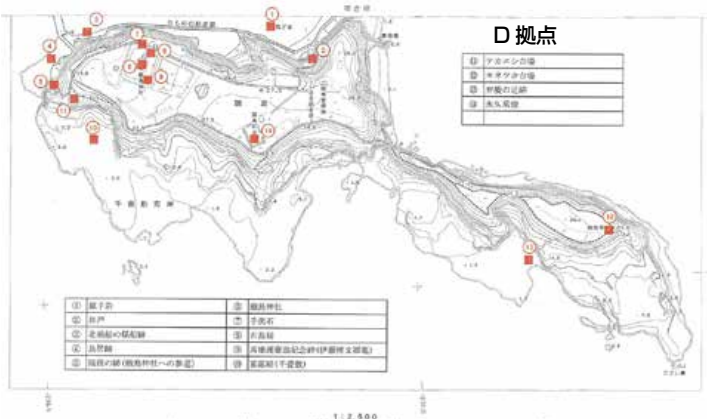
総合計画、都市計画マスタープラン、北の江の島構想等との連動と検証を図り、事業を確実に着手するためのあらゆる有利制度を活用し、構想の詳細計画を立案しなければならぬ。有利制度は、公的財政のみでなく、民間企業の経済感覚と経験、資金力等を最大限活用することも重要な課題である。賛同する企業の掘り起こしと、江差町の協働体制の確立が事業計画立案に必要不可欠である。

### ◆土地・建物所有者と事業実施計画

何をどこにという計画立案にあたっては、地域全体計画と並行し、権利関係、難易度調査の検討が求められる。

また、都市計画法などと合わせ、用途別の建物使用実態を精査し、関係者との将来意向調査や協議が、事業促進にあたり極めて重要である。

かもめ島周辺地域のゾーニングの設定（A拠点～D拠点）



総務産業常任委員会『かもめ島周辺

◆周辺地域の課題と意見

【拠点A地区（開陽丸周辺）】

・開陽丸記念館（船体）は相当老朽化し、今後の長寿命化対策が必須である。多くの町民が訪れる空間を創出することが必要である。

【拠点B地区（南埠頭）】

・南埠頭の多目的機能の充実を図るべきであり、広い空間を有効活用した対策が必要である。

【拠点C地区（かもめ島入口）】

・かもめ島入口は、周辺一帯で新しい価値を生み出す環境整備が最重要と考える。

・急カーブ解消のみの交通安全対策ではなく、周辺一帯の環境整備と江差町の有利性を生かし、広く連結した計画を進めていかなければならない。

【拠点D地区（かもめ島）】

・ありのままのかもめ島をそのままの魅力で伝えることこそが必要である。そのための誘導看板や歴史的背景を伝える説明看板が必要不可欠である。

・かもめ島灯台は、北前船の常夜灯の歴史を引き継ぎ、海の安全を守るシンボルとして設置されている。誘導標識や内容説明などが不足している。

◆「海の駅」「道の駅」構想と「北の江の島」構想

北の江の島構想の素案内容は、当委員会の事務調査と大きな相違はないものと認識する。しかし、素案には、南埠頭用地の在り方、国道周辺用地を含めた周辺地域全体の方向性は示されていない。北の江の島構想において提案された現在施設の拡充・整備か、国道からの地域全体周辺整備を含めた南埠頭への新たな「道の駅」構想を促進・選択するか、その軸足の設定を明確に示さなければならない。

◆総括

江差町の進むべき将来予測を現実的にしつかり検討・把握し、確実な事業推進を図ることが一層重要である。

場当たりの、イベント的発想事業は、地域、江差町のあるべき姿を追求する、持続可能な政策への貢献度は少ないと考える。他町、全道的に類のない、新たな発想に基づく政策立案が緊急の課題と言える。

町長が提案した「北の江の島構想」を、如何に位置付け、江差町の最重要、重点地区であると再認識し、その全体計画を早期に策定することが生き残り

をかけた江差町に必要不可欠であると強く認識する。

「かもめ島周辺地域」の再考察と認識、交付金事業のみに依存する修繕・整備事業ではなく、江差町最大の魅力ある中核地区としての全体計画の早期策定を強く求める。

さらに、これらの課題についても検討しておく必要がある。

- ①ゾーニングと拠点内の民間所有の温泉熱の活用
- ②国道からかもめ島に至る電柱配線の地中化
- ③老朽化、未使用施設の早期対策



（右）神奈川県江の島の観光ガイドの方の案内で江の島全体を視察。歴史を感じながら、また課題を確認しながら視察を行った。



（上・右）千葉県館山市の海の駅での行政視察のようす。施設内には館山市在住の「さかなくん」ギャラリが併設されている。



（右）七飯町の道の駅を視察。さまざまな工夫がされた施設や周辺店舗等に配慮した運営がされていた。

（左）かもめ島上の灯台。かもめ島の歴史や周辺の景観を再認識した。

# くりのために

## 遺産に関する事務調査

社会文教常任委員会（小林くにこ委員長）は、平成29年第4回定例会で事務調査をおこし、7回会議を開催し、兵庫県篠山市や岡山県倉敷市を視察した。調査をした結果について報告した。



文化遺産を守り、育て、今後のまちづくりに生かすことを目的に、文化遺産に関する事務調査を立ち上げた。

平成29年3月、江差町歴史文化基本構想が策定され、同年4月、江差町が文化庁から北海道第1号（地域型）として日本遺産に認定された。

平成30年2月には、日本文化遺産認定先発地の兵庫県篠山市と岡山県倉敷市に出向き、調査研修を実施した。

篠山市では、「篠山市創造都市推進計画」を策定し、文化遺産のみならず、「情報発信」「地域拠点・空間・景観」「食・農・山里」

というテーマでまちづくりに取り組み、「集落農業の再生」や神戸大学と連携した「篠山市農村イノベーションラボ」では人材育成も取り入れ、効果をあげている。

倉敷市では、「美観地区」の集客を、他の観光エリアと結び方策が課題であった。また、宿泊施設不足の解消に向けた対策では、空き家を宿泊施設に活用した例として、NPO法人による「空き家マッチング仲介」事業が特筆される。

これらの調査検討を踏まえ、次のとおり意見を付して報告する。

### ＜意見＞ ◆江差町における文化遺産保護等に対する行政支援について

これまで、文化遺産保護の行政支援として、年間2千万円を超える文化財保護費（平成28年度実績）を執行しているが、半分以上が賃金等の支出であり、

文化財保護（文化財施設の老朽対策等）の見地からは十分ではないと考えられる。文化遺産保護にあたっては、行政だけではなく、所有者や町民を巻き込んだ保護、活用の方を検討していくべきである。また、文化遺産の活用という視点では、縦

割りではなく横軸を基本に役場内関係課の連携を密にしていくことが重要である。

そして、今までの文化財行政に見られた保護中心の手法だけでなく、育て、活用するといった取り組みも必要である。具体的には、町民や団体が行う文化遺産保護活動に対する補助事業についても検討すべきである。

### ◆江差町における古文書等保存資料の整理状況について

本町に保存されている古文書等保存資料については、一定程度整理がされているものの不十分であり、未読資料の中には歴史的な価値のある文化遺産が埋もれている可能性も否定できない。今後の資料の解説と合わせ資料のデータベース化するなど、計画的な整理が必要である。

### ◆江差町における文化遺産に対する町民理解と伝承について

本町の文化遺産の中で、特に

社会文教常任委員会「文化

無形民俗文化財の保存・伝承において、現在の少子化社会において担い手不足が深刻な問題となっており対策が必要である。

江差町歴史文化基本構想には、著名な文化財のほか、「江差のお宝」として有形、無形の沢山の

「お宝」が掲載されているが、町民の認知度という点では進んでいるとは言えない。具体的には、

町民向け「日本遺産ツアー」の開催や、子どもたちの地域文化学習として副読本教材の改訂を通し、「ふるさと江差に心の向く教育の推進」を強化すべきである。

◆江差町における文化遺産の観光資源としての活用について

本町の文化遺産は、いにしえ街道のようにまとまったエリアとその他の文化遺産との連携が不十分と考えられる。点在している文化遺産の点を、線で結ぶことによって、江差の歴史、文化の深化が図られ、観光資源と

しての拡大に繋がる。また、近年の観光は団体から個人にシフトしてきている傾向があり、これまでの観光ルートでは発見できなかった「お宝」にスポットを当てることが必要である。

◆日本遺産認定後の事業展開について

日本遺産の認定による文化庁からの支援は3年間である。事業メニューが限定されている中でも、関係機関、団体からの要望を取り入れ、観光資源である文化遺産の磨き上げと、情報発信が重要である。

また、最終的には全国各地に100程度の日本遺産が認定される。全国的には、日本遺産の認知度はこれからという段階であるが、自らの事業展開と日本遺産認定地域との交流や連携を深めることにより、相乗効果が期待される。

町政執行方針の中で「古くて、新しい町」を掲げ、このことを

具現化するためには、江差町の文化遺産の保存・伝承を町民の協力を得ながら、しっかりと後世に引き継ぎ、若者や子育て世代が住みたい、多くの方々が遊びに行ってみたいまちづくりを推進して頂きたい。

(右・下) 兵庫県篠山市を訪問し、日本遺産認定後の取り組みなどを聞き取り調査した。篠山城跡では、現地ガイドの案内で周辺を現地視察した。



(右・下) 岡山県倉敷市を訪問し、日本遺産認定後の取り組みなどを聞き取り調査した。美観地区では昔の面影を残した建物が多く、多くの観光客が訪れていた。



(右) 担当課から、現在の文化遺産の状況や観光へどう生かしているかなどを聞き取り調査。その際に、VR事業のデモンストレーションを体験。



# 議会の動き

- 4月23日 ◆議会広報特別委員会（出席5名）  
・5月号議会だよりについて（2回目）  
◆全員協議会（出席11名、欠席1名）  
・北の江の島構想（概要版）について  
・江差町中心市街地活性化調査再検証事業について  
・地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）の認定について  
・日本遺産関連事業について  
・函館空港ビルディングの株式譲渡価格の公表について  
・議会だよりにおける一般質問登壇者の写真掲載について
- ◆総務産業常任委員会（出席4名、欠席1名）  
・かもめ島周辺の利用計画に関する事務調査
- 24日 ◆総務産業常任委員会（出席4名、欠席1名）  
・かもめ島周辺の利用計画に関する事務調査（七飯町及び上ノ国町視察）
- 27日 ◆議会運営委員会（出席4名、欠席1名）  
・議会運営に関する事務調査
- 
- 5月8日 ◆社会文教常任委員会（出席5名、欠席1名）  
・文化遺産に関する事務調査
- 15日 ◆総務産業常任委員会（出席5名）  
・かもめ島周辺の利用計画に関する事務調査  
◆檜山議長会議
- 18日 ◆倉敷市議会会派行政視察
- 21日 ◆社会文教常任委員会（出席6名）  
・文化遺産に関する事務調査
- 22日 ◆総務産業常任委員会（出席5名）  
・かもめ島周辺の利用計画に関する事務調査
- 25日 ◆議会運営委員会（出席3名、欠席2名）  
・第2回定例会の運営について  
・議会運営に関する事務調査
- 
- 6月5日 ◆議会運営委員会（出席5名）  
・第2回定例会の運営について
- 12日～13日 ◆道議長会定期総会及び研修会（札幌市）
- 14日 ◆第2回定例会（出席12名）
- 21日 ◆議会運営委員会（出席4名、欠席1名）  
・第2回定例会振り返りについて  
・議会運営に関する事務調査
- 
- 7月3日 ◆道議長会町村議会議員研修会（札幌市）
- 4日 ◆福島県猪苗代町議会行政視察
- 11日 ◆全員協議会（出席11名、欠席1名）  
・公用車の自動車検査証有効期間切れ運行について  
◆議会広報特別委員会（出席4名、欠席1名）  
・8月号議会だよりについて（1回目）  
◆今金町議会行政視察（江差中学校）

## 北海道町村議会議長会主催 第38回町村議会広報コンクールで入選!

毎年行われている全道優良町村議会広報表彰。今年の応募総数は28点で、特選は浦幌町議会、入選が3団体で沼田町議会、長沼町議会、江差町議会が選ばれました。

江差町の議会だよりがコンクールで入選したのは平成27年以来3年ぶりのことです。



平成29年3月議会  
29年度一般会計予算55億円  
慎重に審議し、全会一致で可決!



(上) 表彰された29年5月発行号。表紙のかもめ保育園の子どもたちの表情が評価された。  
(左) 打越議長から賞状を授与された西海谷広報特別委員長

## 平成30年度 北海道町村議会議員研修会に出席しました!



7月3日、札幌コンベンションセンターを会場に全道の議員研修会が行われ、9人の議員が出席しました。

講師は、歴史家・作家の加来耕三氏が「明治維新から150年、現在そして未来を考える」、日本大学法学部教授の岩井奉信氏が「現代日本政治と政局のゆくえ」について講演されました。

史実に基づいた歴史を現代にどう生かしていくか、また現在の政局の状況や今後どうなっていくか、などについて話されました。

## 今号の表紙

### ☆江差町立保育園園児による農産物収穫体験

7月20日、江差町立保育園の園児による農産物の収穫体験がありました。

これまでの悪天候の影響で畑が少しぬかるんだ中で、園児が長靴を履き、手には軍手スタイルで収穫に臨みました。収穫に入る前に、土に足を取られ転びそうになったりする中、収穫したイモやスナップえんどうを先生に自慢げに見せていました。

園児の多くは、馬鈴しょやスナップえんどうの収穫が初めてで、大きいイモを掘り当てたり、えんどう豆を収穫するたび、大きな歓声を上げていました。

限られた時間ですが、食べ慣れている食材を収穫する体験は有意義で、園児達も大喜びでした。



(撮影者：塚本 眞 議会広報特別委員会委員)